

# ほうこん

題字・清水英夫

GALAC・9月号・付録  
2017年9月6日発行(毎月1回6日発行)  
昭和43年3月8日第三種郵便物許可  
〒160-0022  
東京都新宿区新宿5-10-14 中村ビル2F  
NPO法人放送批評懇談会  
TEL(03)5379-5521/FAX(03)5379-5510  
ホームページ <http://www.houkon.jp/>  
Eメール [kondankai@houkon.jp](mailto:kondankai@houkon.jp)  
編集・藤田真文

## ギャラクシー賞CM部門 ラジオCMも対象に

### ―7月理事会報告―

2017年7月31日、7月理事会が開催された。

#### 1. 委員会活動報告

◇出版編集委員会 水島委員長

・7月19日に編集委員会を開催し、10〜11月号について検討した。

・10月号はダイバーシティ特集。

各局アンケートを基に2020年東京オリンピック、パラリンピックに向けた各局の取り組みに迫り、当事者インタビューなどで課題を  
探る。

・11月号はドラマ特集、12月号はドキュメンタリー番組を企画中。

・8月5日発売の星野源表紙9月号がAmazonの予約で800冊完売など、引き合いが多く刷り部数を増やして対応中。

◇選奨事業委員会

〈テレビ部門〉 出田委員長

・6月29日に月評会を開催した。

月間賞には、水曜日のダウンタウン「先生のモノマネ、プロがやったら死ぬほど子供にウケる説」(TBSテレビ)、ETV特集「原爆スラム」と呼ばれた街で「NHK」、「架空OL日記」(読売テレビ)、ノーナレ「ミアタリ」(NHK)の4本を選んだ。

〈ラジオ委員会〉 橋本委員長

・7月24日に定例会を開催し、ラジオ日本、RKB毎日、NACK5の鉄道番組を聴取した。

・7月23日に「ギャラクシー賞入賞作品を聴いて、制作者と語り合う会」を開催した。当日参加者含め61名が出席した。次回は9月17日に開催予定。

〈CM部門〉 稗田委員長

・7月20日に定例会を開催し、28

本のCMを視聴した。モンスターストライク、アンダーアーマー、NTTドコモなどのCMが話題になった。また、9月開催予定の「第54回ギャラクシー賞CM入賞作品を見る会」を検討した。

・ギャラクシー賞CM部門にラジオCMを対象に加えることを承認。ただし、「テレビCMとラジオCMを同じ土俵で審査するのは難しいのでは」などの意見もあったが、55回より実施し改善をはかっていることに。「GALAC」に募集の広告を掲載するなど、各方面へ告知を行う。

〈報道活動部門〉 藤久委員

・7月22日に「ギャラクシー賞報道活動部門受賞作を見る会」を開催し、約70名が出席した。

◇第54回ギャラクシー賞贈賞式懇親会決算報告 中島事務局長

・イベント会社への業務委託やバックパネル、ポスター作成費などで支出が増え、昨年より若干決算額が増額した。一方、会費収入は増収となり、審査料からの充当は減少した。

◇企画事業委員会 川喜田委員長

・9月13日開催予定のセミナー「ラジオの可能性を真剣に考える3」の受付を開始した。

◇広報委員会 滝野理事

・インスタグラムやフェイスブックなどのSNSで「GALAC」9月号表紙・星野源のメイキングや表紙画像をアップしたところ反響が大きく、広報としての役割を果たせた。

## 2. その他

①入会・退会の件

入会 維持会員・ジュピターテレコム  
退会 正会員・小林直毅さん

②NHK「ザ・ベストテレビ2017」協力の件

協力を承認。  
③第55回ギャラクシー賞贈賞式日程  
2018年5月31日、セルリアンタワー東急ホテルでの開催を承認。再来年以降の交渉を始める。

④その他  
ギャラクシー賞トロフィーレプリカの発送を完了。注文数はほぼ例年通りとなった。

次回の理事会

9月28日(木)、10月25日(水)

### ギャラクシー賞入賞作品を見る会・聴く会 日程

<CM> 「第54回ギャラクシー賞  
CM入賞作品を見る会」

日時：9月2日(土)  
14:00~16:00 ※開場は13:30

場所：日本大学芸術学部江古田校舎東棟  
地下1階EB-1教室

参加費：無料(先着順)

<ラジオ> 「ギャラクシー賞入賞作品を聴いて、  
制作者と語り合う会 vol.24」

日時：9月17日(日)  
13:00~17:00 ※開場は12:30

場所：TOKYO FM11階 ジェットストリーム大会議室

参加費：1500円

申込方法、詳細は別紙をご確認ください

### 会議記録

「7月」  
19日 出版編集委員会  
20日 (選奨)CM定例会  
24日 (選奨)ラジオ定例会  
26日 (選奨)テレビ月評会  
31日 理事会

【出席】音好宏、橋本隆、藤田真文、藤久ミネ、川喜田尚、水島宏明、稗田政憲、出田幸彦、滝野俊一、岩根彰子、五井千鶴子、上滝徹也、坂本衛、桜井聖子、嶋田親一、鈴木嘉一、桧山珠美、山田健太、中島好登

## 新入正会員自己紹介

### 一生活者として

泉綾子

私自身、いわゆるデジタルネイティブと呼ばれる世代で、現在はデジタルマーケティング会社でコンサルティンクをしています。

最近若者のテレビ離れとよく耳にしますが、一生活者として振り返ると、確かに一度もテレビをつけない日があったり、つけてもネット動画を見たりと、テレビに向き合う頻度や接し方が変わっていることは事実だと思います。

一方で、友人との話のなかでドラマやバラエティ番組の話題は多くありますし、ネット上でCMが話題になったりすることも事実です。

このように、この世代にとっても、依然テレビの影響は大きいのです。

現在はデジタルの会社にいますが、「テレビ」「デジタル」と分けて考えるのではなく、すべて引つ括めて生活者との接点として捉え、生活を豊かにする仕組みを考えたいと思っています。

経歴的にも人間的にもまだまだ未熟ではありますが、これからどうぞよろしくお願致します。

## 老兵ですがよろしく

小川邦雄

50年前、入社してすぐラジオの録音構成番組担当、その後もテレビ報道で社会部や外信部の取材、「報道特集」の制作・出演と仕事の機会を与えてもらいましたが、日々の情報を追うことで年月が過ぎ、各種賞の世界とはまったく無縁でした。さらに現場を離れた後は、法務部・業務監査室と、いわゆるコンプラの裏方で煙たがられて過ごしました。

そのような経緯と、完全にリタイアした身でお役に立てるのか、入会のお誘いに対しては、いささか腰が引けておりましたが、今回受賞した報道番組2本を拝見し、弱気が吹き飛びました

富山市議会不正追及とカンボジアPKO問題、どちらも粘り強い取材と、問題に迫る強い姿勢の賜物であり、その問題提起は、深く視聴者に届くものでした。

よい番組を、世に送り出すさやかな力添えが出来ればと考えております。



## 新入正会員自己紹介

### 恩返しのもりで

櫻井要

昭和54年tvkに入社37年間在職、昨年60歳の節目に卒業、子会社に勤務しています。配属は文系なのに技術部、3年後念願の制作現場に異動も2年でクビ、それも思ってもみなかった営業しかも大阪、以来四半世紀、あこがれの放送現場からは遠い世界の営業畑。しかし志は常にテレビマンとしての自覚をもって、セルスしながら営業プロデューサーとして放送に携わってきました。

ところが晩年？デジタル化、インターネットメディア環境の変化・発展に伴う放送業界を取り巻く環境悪化の中、またもや意に反して編成に異動、自局の編成・番組制作について考えれば考えるほど頭は混乱し正直テレビを見るのが苦痛とさえ思う時期を過ごしていました。そして子会社に異動、局の制作部門の大半を担っている会社とはいえ現場から遠く離れ一視聴者としてテレビを楽しむ気分になっていたところ、先輩より入会を勧められお世話になった業界への恩返しのもりで入会いたしました。よろしくお願いします。

## 新入正会員自己紹介

### 無意識のうちに

よしおか雄一

一歳の頃、私は「無意識」のうちにテレビに映る浅間山荘の生中継にかじりつき、「無意識」のうちに保育所のおかげでキヤスタのまね事をしたり、「無意識」のうちに母と一緒に行った歯医者さんのラジオで小沢昭一の話芸にハマり、「無意識」のうちに小1のときから意味もわからぬまま、NHKEテレの教養番組を見続け、「無意識」のうちにあるドキュメンタリーがきっかけで志賀信夫さんと親しくなり、「無意識」のうちに「GALAC」に番組批評を投稿するようになっています。

私自身が知らないうちに、放送によつて私の人生、育てられた感じがしてなりません。

機器や技術が進歩しても、放送は人間はどうしたら幸せになれるかをああでもない、こうでもないといワイやるしかないと思います。それを「意識」して日々向き合う所存です。



放送批評懇談会セミナー2017

# ラジオの可能性を 真剣に考える3

～東阪FM局の  
矜持とチャレンジ～

受講者募集中

## 開催趣旨

2016年のラジオ広告費は対前年比102.5%。radio新サービスやワイドFM効果が出たとはいえ、セツインユースの長期低迷は続いています。放懇セミナー2017は、“1局2波”の先進局・大阪FM802 栗花落社長と、開発とチャレンジをDNAとする・TO KYO FM村上取締役をお迎えします。若者の熱い支持を得てきた802はFM COCOLOを承継し、従来リスナーを大切にしながら新しいファンを開拓し、音楽文化発信2波体制を軌道に乗せました。一方、新番組開発や独自のイベント展開でファンの支持を獲得し、ラジオメディアの可能性を拡張し続けるTFM。編成戦略、イベント展開、ブレない経営ビジョンなど、FM局の視点から“ラジオの可能性”を考え、文化のインキュベーターとしてのラジオを再発見します。

## プログラム

14:00～15:10

【ビジョン、戦略、チャレンジ】

FM802 代表取締役社長

つゆり  
**栗花落 光**

- ・2波体制の決断と苦勞～5年目で軌道に
- ・2波で発見したポジショニングの重要性

エフエム東京 取締役営業局長

**村上 正光**

- ・理念に根ざした放送事業活動
- ・新しいファンをつかむ「未来授業」「SCHOOL OF LOCK!」ほか

15:25～16:30

【真剣、本音ディスカッション】

登壇者+会場からの質問等

日時：2017年9月13日(水) 14:00～16:30

会場：明治記念館 東京都港区元赤坂2-2-23 Tel.03-3403-1171

■受講料 放送批評懇談会正会員(個人) 3,000円  
維持会員(法人) 5,000円  
一般 8,000円

■申込先 放送批評懇談会ホームページ <http://www.houkon.jp>  
ファクス、郵送でのお申込をご希望の方は、資料をご請求ください  
Tel.03-5379-5521 Fax.03-5379-5510 [kondankai@houkon.jp](mailto:kondankai@houkon.jp)

■申込締切 9月4日(月) 定員100名、先着順受付。定員になり次第、締め切らせていただきます。

